



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
 発行人 尾形幸男 男
 編集 福島東高等学校同窓会事務局
 印刷 吾妻印刷

熱情

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸男



昨日(七月二十三日)あづま球場で、「第八十八回全国高校野球福島大会 福島東対聖光学院」を観戦してきました。三年連続甲子園出場を目指した聖光学院を破ったことに大きな喜びを感じたことは勿論ですが、この三時間弱の間に様々な感情が私自身の心の中を渦巻きました。ベスト16を懸けたこの戦いは両校にとって大きなヤマ場となる試合だと目されており、私もこの試合は見逃せないと思っていました。球場は試合前から異様な雰囲気にも包まれていました。

開始前、球場を見回すと現教職員の方々に混じって、以前東高校で教鞭を執られた先生方の多さに驚かされました。歴代校長先生や退職なされている先生方がうれしそうに会話を弾ませ、球場に目を向けていらつしやいました。更に、毎年東高校の試合を欠かさず見ているという、第一期生(既に一期生も四十二歳)知る人ぞ知る東高校野球部の追っかけです。あえて名前は伏せさせていただきますね。O君)を筆頭に野球部OB、そして同窓生。そこに東高校をこよなく愛していただいているファンの方々。東高校応援団、保護者会も準備が整い、いよいよ試合が開始されました。

集中力を傾けていました。この集中心と緊張感が我々の想像を超えるプレーを生み出すのではないのでしょうか。ですから、観客は選手の「純粹」に試合に打ち込む姿に自然に引き込まれていきました。次に保護者会の方々のことです。(これは次戦の対光南戦でのことですが)皆さんで東校カラーのブルのポロシャツを揃え、選手以上に緊張しながら応援していました。全ての試合で五回が終わるとグラウンド整備が行われるのですが、なんと、この間に自分たちだけでなく、東高校側で応援してくれている見ず知らずの観客の皆さんにもアイスコーヒーやお菓子を配っているのです。なかなか、ここまでできないのではないのでしょうか。(すこい)…感心というか、感激してしまいました。そして、試合は七回を終わって8対6。東高校は追いつかれそうな状態で八回を向かえました。すると、応援団長を中心にベンチ入りできなかった野球部員、プラスチック部員、応援生徒がひとつの陣を組み始めました。勝つことを信じ気合いを入れ直したのでしょうか。こんなことをできる生徒たちって何なんだろうと感じました。

そのままで自然に一体感を作り出せる我が後輩たちを本当に羨ましく思います。あの光景を見た選手たちは、大声援の「頑張れ」よりも「絶対に勝つてやる」と奮い立ったのではないのでしょうか。人を動かす力には様々な方法があるのです。最後の選手を打ち取った瞬間、選手、応援団は恥じらいもなく抱き合っていました。試合中、一歩も動かさず、水をかけ続けられながらずっと応援旗を持ち続けていた応援団員だったのではないのでしょうか。キミの忍耐力に脱帽です)

私も何かが、今まで忘れかけていた爽やかな感情に包まれた感じがしました。そして、両校の選手がひたむきに取り組んだこの試合を通して、「熱情」という言葉を思い出したのです。人間には様々な個性があり、その果てしない大きな人間社会の中で生きていかなければなりません。しかし、人間が人間であるためには「感性」を最大限に生かしていきたいと感じます。今回、私はたくさんの関係者から、そのことをしみじみ感じさせられました。人に見せるための行動ではなく、一つの目標のために個人の様々な欲求をチームがコントロールし、チームワークという最大の武器を生かして相手に挑む。今の私たちにも必要なことではないのでしょうか。そして、そのような誇れる生徒たちを育てていただいている保護者、先生方に心から感謝いたします。

同窓会は昨年度から、生徒の学校生活充実のために、「在校生支援」をメインの活動として掲げています。これは運動部活動だけではなく文化部、同好会についても同様です。今年五月に開催された吹奏楽部の定期演奏会も拝見させていただきましたが、音楽の楽しさを音だけでなく、様々な感覚から伝えようと、様々な創造性が毎年観客席を満員にする理由ではないかと感心させられました。そして、この演奏会を聴いた小さい子供からお年寄りに音楽の素晴らしさを与えているんだらうと誇らしくもなりました。このように「熱情」を持ち、「熱情」を与えてくれる生徒たちの頑張り在今后とも支援していきたいと思っています。

昨年度の「東高応援基金」は約四五万円となっております。協賛いただいた方々には心から御礼申し上げます。ただ、今後積立金を崩さずにこの支援活動を維持するためには、より多くの同窓生の賛同が今まで以上に必要になってきているのも事実です。どうか、「東高応援基金」の趣旨をご理解いただき、ご賛同願えばと切に願う次第であります。

最後に、今回の第三号発刊にあたりましては、各関係各位から多大なるご協力をいただいております。これも、東高と同窓会の更なる発展に期待をしていただいているものと真摯に受け止めます。同窓会員がひとつになり活動を盛り上げていきたいと思っております。

文武両道の実現

福島東高等学校長 深澤陽一



同窓生の皆様にはご健勝で過ごしていることと思います。四月に二十七期生を迎えました。

この稿では、東高がどのような方向に向けて教育活動を行っているかについて簡単に説明します。県立高校は全て、それぞれの取り組みの様子を示すため経営・運営ビジョンを公表しています。表で示した本校のビジョンには四つの柱があります。

生徒にとつての中心課題が B 文武両道の質的向上です。本校の永遠の命題である文武両道を、質的に向上させるために生徒一人ひとりが活動します。それを具体的に支えるのが、一学習時間の確保、一進路目標の達成、三部活動への精励の三つの基本項目です。ここでは示してませんが、学習時間の確保のために、下校時刻の厳守、考査前の部活動制限、日々題、休日課題等の課題や確認テスト、

課外、学習会、朝自習、土曜講座など、皆さんにも懐かしい具体的な実践項目が並んでいます。その他の項目については説明を省略しますが、それぞれ具体的な実践のための手だてを講じて、生徒の文武両道の実践を保証しようと努めています。

本校は、説明責任を果たすため、情報を外に出すよう努めています。それが、保護者・地域社会に対して、開かれた学校づくりをするということ。ホームページの充実、町内会への情報提供などを行っています。同窓会の皆様にご協力をいただいている、総合学習での「職業人に聞く」は、この三地域との交流に位置づけています。

教職員にとつて、D 指導力の向上を図ることは本来の使命です。しかし、本校は仕事が多忙なこともあって、常に意識して研修を継続していかなければなかなか達成の難しい項目でもあります。

今年度から新たに、目標達成のための大きな柱に、A 主体的な学びを打ち立てました。誤

解を恐れずに言つと、創設以来本校の学習は、教員から与えられた学習の中身を、生徒は、一生懸命に咀嚼する学習だった気がします。栄養素の分析も、効用の確認も不十分ながら、言われるままに信じて、食へ尽くす学習だったのではないでしょう。部活動との両立のため、時間が限られた中での学習では、それが最も効率であったのですし、現在も有効性は変わらな

いと思っています。しかし、私は学習を生徒の側に引き寄せたいと考えています。それが主体的な学びの意味なのです。総合学習や在り方生き方の学習などを通して、生徒の学習への主体性を高め、学びの質的向上を図りたいと考えています。

もちろん表に矢印で示したように、教職員、保護者・地域社会が、生徒の文武両道の質的向上を助けます。生徒の学びが主体的なものに変化していくことが、教職員、保護者にとつても主体的な学びにつながると考えています。

別の稿で詳しく述べられると思いますが、現在の本校は、部活動でも、進学の実績でも素晴らしい成果を上げています。八月に行なわれたインターハイ大阪大会には、十四年ぶりに男子

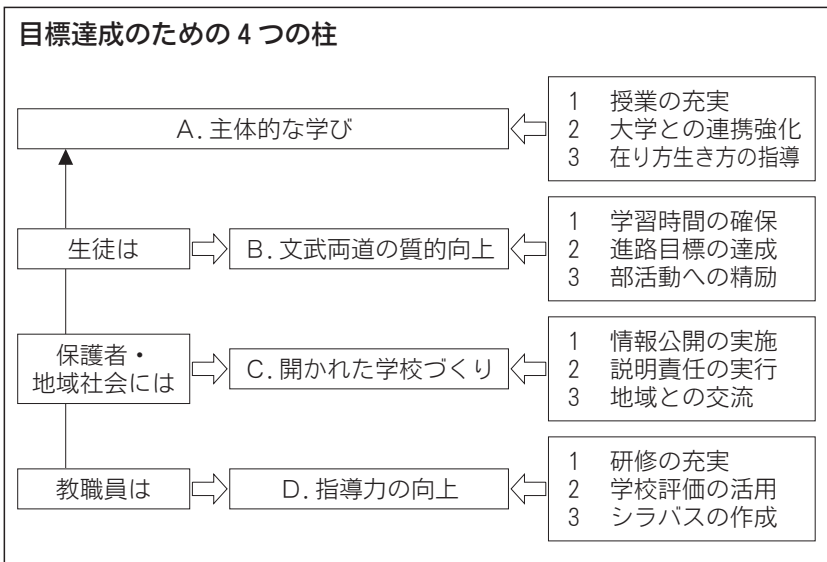
バスケットボール部が参加し、全国初の一勝をあげました。最後まであきらめない本校らしい活躍でした。陸上競技部女子短距離は、準決勝で涙のみでしたが、四百mリレーでは県高校新記録を作りました。柔道部女子も健闘しました。今回より、同窓会に多くの援助をいただいたことも、大きな励みとなりました。

本年三月の卒業生は、東北大学九名を始めとして、国立大

学延べ百七十一名合格と、これまでで最も多い数字を出すことができました。これは安積高校に次いで、本県第二位の成績になります。本当によく頑張ったと喜んでおります。

冒頭にも述べましたが、文武両道の実現は本校の永遠の命題でもあります。学習の形は少し変わろうとし

ておりますが、このことは、同窓生の皆様もそうであったように、本校生も、これから本校を目指す中学生にとつても、変わらない命題であります。どんなに辛くても、文武両道を目指し懸命に頑張っている東高生を素晴らしいと思います。いろいろな機会に、同窓生の皆様とお会いし、昔話をしたり、これからの東高について何うことができればと思っています。



ておりますが、このことは、同窓生の皆様もそうであったように、本校生も、これから本校を目指す中学生にとつても、変わらない命題であります。どんなに辛くても、文武両道を目指し懸命に頑張っている東高生を素晴らしいと思います。いろいろな機会に、同窓生の皆様とお会いし、昔話をしたり、これからの東高について何うことができればと思っています。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。

2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧 問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事と構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成17年度 収入支出決算書

収入金額 2,780,445円
支出金額 2,326,186円
差引残額 454,259円

1. 収入の部

単位：円

Table with 6 columns: 項目, 17年度予算額, 繰入額, 現計予算額, 17年度決算額, 増減, 摘要. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 6 columns: 項目(科目), 17年度予算額, 流用額, 現計予算額, 17年度決算額, 残 額, 摘 要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。



平成18年度 収入支出予算書

収入金額 3,011,800円
支出金額 3,011,800円
差引残額 0円

1. 収入の部

▲は減少 単位：円

Table with 6 columns: 項目, 17年度予算額, 18年度予算額, 増減, 摘要. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 東高応援基金, 合計.

2. 支出の部

Table with 6 columns: 項目(科目), 17年度予算額, 18年度予算額, 増減, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

全国大会出場への激励金の支援

今年度のインターハイ県大会は好成績の続出で大いに盛り上がりました。昨年度から在校生支援を行ってききましたが、全国大会へ出場する部活動に対して特別な支援を行う規定はありませんでした(サッカー部の全国大会出場など特定の大会への募金活動は行ってきました)。そこで、全国大会へ出場する部活動に対し、同窓会としての支援のあり方を検討するため、6月27日に同窓会役員会を開きました。そこで、下記のような支援を行うことを決定しました。

1. 全国大会等への出場に際しては、同窓会から以下の激励金を支給する。

① 団体種目	50万円
② 個人種目	1人につき2万円
③ 文化部	3万円
2. 上記1より、2006大阪インターハイ出場への激励金、平成18年度高文連全国大会出場への激励金として以下の金額を支給する。

① バスケットボール部	50万円
② 陸上競技部	12万円(6名出場)
③ 柔道部	2万円(1名出場)
④ 写真部	3万円
3. 財源は同窓会積立金から充てる。今年度は67万円(予算書の54万円に加えて合計121万円の定期預金を解約しました)。
4. 今後の課題としては、財源の確保の問題、支出の基準(詳細)を明確に決めること(各部年度1回の支援になる方向)です。なお、次回の役員会にて詳細を検討することになります。
5. その他 会長などの同席のもと贈呈式を行う。

同窓会在校生支援事業

去る3月28日に行われた同窓会役員会において、同窓会では平成18年度、下記の通り、在校生支援事業を行うことが決定されました。

○部活動支援(900,000円)

- ・バレーボール部 ネット(50,000円)
- ・ハンドボール部 ネット(70,000円)
- ・サッカー部 フットサル用ゴール(200,000円)
- ・弓道部 弓(80,000円)
- ・陸上部 ワンタッチテント(100,000円)
- ・ソフトボール部 ユニホーム代補助(150,000円)
- ・合唱部 ストープ(30,000円)
- ・写真部 デジタルカメラ(100,000円)
- ・書道同好会 額(70,000円)
- ・放送委員会 パソコン本体(50,000円)

○定期演奏会・発表会補助(150,000円)

- ・吹奏楽部 第23回定期演奏会(50,000円)
- ・合唱部 第4回定期演奏会(50,000円)
- ・美術部 第27回桜美展(30,000円)
- ・演劇部 自主公演(20,000円)

○東桜祭(公開文化祭)支援(240,000円)

*その他 同窓会では各種大会の応援広告の掲載、卒業証書入れホルダーの贈呈などの在校生支援も行っています。また、総合的な学習の時間「さまざまな職業人に聞く」では多くの同窓生が講師を務めます。

【平成17年度の在校生支援事業(支援予算額)】

- ・バスケットボール(女子)部(150,000円)・野球部(150,000円)
- ・弓道部(150,000円)・柔道部と剣道部(100,000円)・バドミントン部(105,000円)・写真部(50,000円)・卓球部(120,000円)・応援(プラスバンド)(25,000円)・吹奏楽部定演(50,000円)・合唱部定演(50,000円)・美術部桜美展(30,000円)・演劇同好会自主公演(20,000円)

贈呈式の報告

七月十四日、深澤陽一校長、尾形幸男同窓会会長の同席のもと、全国的大会出場の激励金の贈呈式が行われました。式では激励金の贈呈とともに、深澤校長、尾形会長から激励の言葉がかけられ、生徒、部員からは決意の言葉が述べられました。

写真部では尾形会長が「本校の文武両道というと、運動部というイメージがあるが、文化部の活性化がこの文武両道の中身をもっと充実させてくれる。今後の活躍も期待している。」と述べられた。これに対し、「全国の高校の様々な作品に触れ、自分を高めてきたい」というお礼の言葉がありました。

柔道部とバスケットボール部では尾形会長が「今回の結果を同窓生一同、大変喜んでる。全国大会では東高の代表として頑張るという気持ちより、めったにない素晴らしい経験なので、自分のために全力を尽くして頑張ってきて欲しい」という激励の言葉が選手にかけられました。これに対し、「経験を積むよい機会なので、全国で自分の力を試してみたい」「ここまで来れたのは、保護者や先生方など自分たちを支えてくれる多くの人たちのお陰なので、その人たちへの感謝の気持ちを持って全力でプレーしたい」という決

意の表明がありました。その後、記念写真を撮影し、とてもさわやかな贈呈式を終えました。なお、当日大会だった陸上競技部には後日、深澤校長より激励金の贈呈が行われました。そこでは好成績の陰にある、日頃の地道な努力の素晴らしさを称える激励の言葉がかけられました。



柔道部



バスケットボール部

「東高応援基金」 協賛者名

()は卒業期

立花純孝(9)・小川洋太郎(1)・小野滋之(1)・木村浩一(1)・西山尚利(1)・尾形幸男(1)・片桐秀樹(1)・佐久間智宏(1)・杉原一明(1)・仙浪泰明(1)・高橋賢次(1)・阿部宗弘(1)・佐藤武士(1)・高橋宏昌(1)・後藤康弘(1)・田中良典(1)・山口博史(1)・赤井義則(1)・荒海亮(1)・服部忠彦(1)・田村健(1)・今野充宏(2)・秋葉直樹(2)・阿部真人(2)・梅津良一(2)・相馬伸介(2)・真柴毅(2)・大槻大輔(2)・尾形典良(3)・末永秀一(3)・横山晃一(3)・吉田憲雄(3)・大内則和(3)・蒲倉達也(3)・岡田正明(3)・白渡孝三(3)・外山淳一(3)・斎藤盛一(3)・寺島健吾(3)・大河原友道(3)・堀江孝晴(3)・坂巻幸司(3)・服部正仁(3)・大塚健司(4)・松本重明(4)・佐藤真一(4)・長嶺俊英(4)・佐藤弘之(4)・矢吹浩幸(4)・菅野充広(4)・松浦賢治(4)・三浦茂樹(4)・宗像和人(4)・鈴木美巳(4)・五十嵐広毅(5)・大槻達也(5)・永澤憲一(5)・室井克典(5)・渡辺幹男(5)・小野友史(5)・小竹智行(5)・高橋将人(5)・立谷保(5)・手塚健一(5)・角田英昭(5)・瀬尾光裕(5)・高野秀和(5)・遠藤新(5)・清野晃(5)・大槻智朗(5)・渡辺裕哉(5)・遠藤弘一(5)・菅野晃弘(5)・山岸淳一(5)・鈴木徹二(6)・後藤裕幸(6)・東城善正(6)・後藤洋一(6)・山川毅(6)・山田博章(6)・相澤慎一(6)・若生

省吾(6)・鈴木一義(6)・阿曾一寛(7)・佐々木崇(7)・山岸竜大(7)・角田純也(7)・鈴木成人(7)・田村健一郎(7)・岡崎道浩(7)・川名努(7)・黒江昌宏(7)・横山義之(7)・遠藤真也(7)・安齋晃(8)・河原慎治(8)・日向正仁(8)・鈴木拓也(8)・佐久間潤(8)・鈴木俊一郎(8)・東城幸治(8)・関康徳(9)・佐藤正晃(9)・大槻進也(9)・菅野仁(9)・渡辺直己(9)・佐藤和彦(9)・服部博(9)・渡辺勝美(9)・穴戸哲也(10)・内山雄史(10)・大橋広樹(10)・赤間敬通(10)・佐藤温史(10)・鈴木昌幸(10)・加藤芳史(10)・小川昌弘(10)・鈴木和之(10)・三浦和幸(10)・吾妻敬一(10)・五十嵐潤(10)・小野洋正(10)・林容市(10)・佐藤智顕(11)・吉田明史(11)・佐々木智裕(11)・鈴木貴久(11)・八島貴宏(11)・浅野昇建(11)・歌川俊一(11)・中村俊之(11)・菊地忠大(11)・澁木拓城(11)・佐藤光裕(11)・真柴善継(11)・佐藤輝男(11)・國分邦和(12)・浅野英建(12)・猿田秀和(12)・高橋克彦(12)・篠崎伸(12)・白川真(12)・佐々木達(13)・長谷部崇(13)・佐藤琢磨(13)・鈴木順一(13)・二階堂俊介(13)・黒須義一(13)・白井敦史(13)・早川晃夫(13)・渡辺良一(13)・鈴木純治(13)・安田裕(13)・今野敬樹(13)・高橋義泰(13)・安孫子慎太郎(13)・大橋学(13)・服部和彦(13)・佐藤幸樹(14)・阿部貴仁(14)・佐藤旭(14)・佐藤学(14)・本田洋之(14)・松野哲郎(14)・小野賢一(14)・粕谷卓摩(14)・富田博隆(14)・富永敦(14)・齋藤史隆(14)・三浦洋平(14)・遠藤啓文(14)・高橋将典(14)・菅野健(14)・二階堂茂博(14)・宮本

教広(14)・加藤秀吉(15)・野勝則(15)・橋浩幸(15)・本田貴大(15)・安齋啓介(15)・石川智則(15)・菅野直樹(15)・菅野元樹(15)・高津健太郎(15)・旗野誠(15)・河田裕明(15)・齋藤訓朗(15)・佐藤孝法(15)・佐藤智宏(15)・山田泰広(15)・守山直樹(15)・山田俊嗣(15)・鈴木尚也(16)・佐藤理江(16)・羽根田尚美(16)・佐久間紀行(16)・橋本真(16)・三浦雄介(16)・伊藤和永(16)・鈴木哲治(16)・高橋直之(16)・星和男(16)・安倍利雄(16)・阿部信一(17)・嶋原智宏(17)・沖澤舞子(17)・齋藤真由美(17)・片平剛(17)・菅野恵実(17)・武田茂(17)・渡邊裕一(17)・稲村健吾(17)・末永剛(17)・半澤義仁(17)・庄司真奈美(17)・松野大悟(17)・上杉光成(17)・柴田学(17)・大橋元子(18)・松野真希(18)・三浦善哲(18)・富田浩司(18)・大槻雪乃(18)・根本元徳(18)・林宏幸(18)・笠原弘毅(18)・湯野川賢一郎(18)・川崎布美子(18)・菊田大樹(18)・鈴木亮平(18)・菅野理範(18)・塩野敏(18)・高橋雄一(18)・尾形泰英(19)・小森陽子(19)・武田文子(19)・矢目正樹(19)・丹野宏美(19)・古川貴史(19)・富田宏幸(19)・安田圭亮(19)・山口卓也(19)・遠藤祐紀(19)・菅野卓(19)・佐藤琢磨(19)・本多郁恵(19)・渡邊美和子(19)・渡邊純子(19)・安齋貴寛(19)・小野勝彦(19)・古宮章子(19)・蓬田史徳(19)・齋藤幸平(19)・安齋幹人(19)・伊藤雅之(19)・加藤元晴(20)・川加奈恵(20)・橋本弘(20)・村上貴洋(20)・春日由紀(20)・阿部俊之(20)・田知美(20)・柳原扶美(20)・関原健太(20)・山田梨沙子(20)・湯浅なお美(20)・

湯川希望(20)・赤石澤卓(20)・佐藤香織(20)・鈴木理恵(20)・目黒昌樹(20)・茂木勇人(20)・谷津彰(20)・飯村祐治(20)・石川圭(20)・石幡乾(20)・佐藤美智子(20)・二瓶真人(20)・笠原敬男(20)・高野秀一郎(20)・橋真吾(20)・野大(20)・野澤亮一郎(20)・岡野朋子(20)・遠藤小百合(21)・小野真司(21)・後藤あゆみ(21)・齋藤奈津子(21)・齋藤広彰(21)・高田裕太郎(21)・安齋早紀(21)・猪股貴志(21)・大槻里美(21)・齋藤拓野(21)・野口鮎美(21)・半沢宏一郎(21)・舞木尋海(21)・嶋原佳明(21)・関根史博(21)・野津智華子(21)・吉川夕加里(21)・伊達孝浩(21)・横山愛(21)・管麻里子(21)・齋藤元(21)・鈴木有紗(21)・清和敬子(21)・高橋和寛(21)・平形佳之(21)・山本拓也(21)・梅津智寛(21)・大橋克哉(21)・菅野哲(21)・佐藤弘明(21)・橋本頭(21)・林史和(21)・渡邊千晶(21)・尾形泰裕(21)・川和也(22)・鹿野和明(22)・富田里美(22)・沼崎学(22)・幕田親平(22)・遠藤賢太(22)・竹内大崇(22)・小川実由樹(22)・原裕一(22)・萬代宏樹(22)・矢吹友紀(22)・齋藤順子(22)・津田文香(22)・坪井貴大(22)・萩直也(22)・本田尚子(22)・柳原圭(22)・伊藤優(22)・稲田正浩(22)・菅野健(22)・佐久間勝好(22)・塩谷卓也(22)・清野友里絵(22)・遠藤絢(22)・遠藤哲哉(22)・阿部竜也(22)・渡辺和晴(22)・渡邊亮(22)・石田浩一(23)・遠藤孝浩(23)・後藤怜(23)・小針朋子(23)・佐藤友理(23)・田本紘一(23)・羽田潤(23)・南雅史(23)・柳内宏太(23)・遠藤理沙(23)・大堀信一(23)・岡崎祥子(23)・菊地春香(23)・嶋原

絵美(23)・甚野清英(23)・高橋望(23)・橋本藍(23)・松本ゆかり(23)・真鍋由司(23)・宗片友紀(23)・森藤いづみ(23)・渡辺茂樹(23)・石川靖子(23)・角田奈緒子(23)・古積かおる(23)・佐藤雅人(23)・清野哲一(23)・関口泉(23)・添田英二(23)・本間有華(23)・水口秀一(23)・山岸恵介(23)・遠藤修治(23)・菅野大地(23)・菅野裕樹(23)・齋藤慧(23)・甚野弘輝(23)・清野和也(23)・渡邊笑美加(23)・新井真紀(23)・猪狩裕未(23)・泉雄也(23)・小野哲(23)・紺野美保(23)・齋藤祥子(23)・佐藤翔(23)・鈴木有哉(23)・関口佑(23)・高橋政哉(23)・宮崎友哉(23)・浅尾直哉(23)・安海智香子(23)・大河内一男(23)・大室仁美(23)・菅野和佳(23)・齋藤彩(23)・高橋佑太(23)・伊達孝典(23)・尾形泰道(23)・熊田裕喜(23)・桑原裕真(23)・齋藤直宏(23)・齋藤真奈美(23)・佐藤孝洋(23)・中村紘文(23)・本多奨(23)・宮崎舞(23)・阿部尚徳(23)・小熊耕平(23)・菅野伸(23)・紺野靖(23)・鹿野仁美(23)・高橋路史(23)・長島慎弥(23)・三浦紗央(23)

平成十八年三月三十一日までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年
学級数 卒業生数	6 (281)	6 (265)	6 (262)	6 (283)	8 (365)	8 (361)	8 (372)	8 (376)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259

卒業年度	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年
学級数 卒業生数	9 (427)	9 (423)	9 (431)	9 (421)	9 (408)	9 (403)	8 (357)	8 (354)
国公立大	65	88	109	96	109	85	109	113
私立大	188	278	291	333	299	418	413	327

卒業年度	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年
学級数 卒業生数	9 (351)	9 (354)	9 (362)	9 (350)	9 (358)	9 (359)	8 (314)	8 (316)
国公立大	114	145	150	115	165	153	154	171
私立大	313	311	346	349	247	248	305	322

(表1)

大学別合格者数 (平成18・17・16年度入試)

大学名	平成18年	平成17年	平成16年
弘前大	4	1	1
岩手大	6	7	4
東北大	9	4	4
宮城教育大	3	0	2
秋田大	1	1	1
山形大	17	10	13
福島大	36	42	46
茨城大	4	7	3
筑波大	2	1	4
宇都宮大	16	7	13
群馬大	1	2	2
埼玉大	8	9	8
千葉大	4	2	1
東京外語大	2	1	2
東京学芸大	2	1	1
東京農工大	1	1	0
電気通信大	3	0	1
横浜国立大	0	2	1
新潟大	5	8	5
上越教育大	1	0	1
金沢大	0	0	2
山梨大	0	0	1
静岡大	3	0	1
岩手県立大	3	2	4
宮城大	3	10	2
秋田県立大	4	4	0
会津大	2	4	7
県立医大(看護)	7	7	5
首都大学東京	1	7	5
高崎経済大	7	4	8
横浜市立大	3	2	1
都留文科大	3	1	2
その他	10	14	7
計	171	154	153

大学名	平成18年	平成17年	平成16年
東北学院大	37	51	37
東北工業大	5	9	1
東北福祉大	12	12	13
東北薬科大	5	2	2
獨協大	3	2	5
文教大	6	16	4
学習院大	1	0	3
慶応大	0	1	0
工学院大	7	2	0
國學院大	1	0	2
国土館大	5	2	3
駒沢大	4	0	4
芝浦工大	6	1	0
成蹊大	0	2	2
専修大	2	4	11
大東文化大	11	2	3
拓殖大	2	0	1
中央大	7	4	5
東海大	7	10	11
東京電機大	1	0	2
東京農業大	5	4	0
東京理科大	7	3	1
東洋大	6	5	6
日本大	14	19	14
法政大	13	6	6
武蔵大	1	1	3
明治大	10	5	4
明治学院大	0	0	2
立教大	2	3	2
早稲田大	2	2	1
神奈川大	22	5	7
立命館大	1	0	1
その他	117	132	92
計	322	305	248

進路



進路指導主事 味原 正美

例年通り表一に国公立大学の現役合格者数を載せました。昨年度の卒業生二四期生は過去最高の合格者を出し、福島県内では安積高校に次いで第二位でした。表二の大学別では、地元福島大学、県立医科大学(看護)を中心に東北大学、山形大学、宇都宮大学など健闘しました。さらに入試制度が変化する中セン

ター試験利用入試で関東の私立大学についても例年より多く合格者を出すことができました。全体の進学状況を示す大学等進学率も目標の80%を大きく超えることができました。そのような結果にたどり着いたのは学年の先生方の三年間を見据えた御指導、全職員一丸となつての二次対策もありましたが、それにもまして生徒達が最後まで先生方を信じて努力することができたのだと思っています。福島東高校のこの良き伝統をこれからも続けていかなくてはならないと思っています。

現役大学等進学率…平成18年度(86.7%) 平成17年度(80.3%) 平成16年度(72.4%) (表2)

24期生総括

24期学年主任
村越 宗平

国立公立大学延べ合格者が百七十一名、そのうち、東北大学合格者が九名であった。私立大学、短期大学への進学者を含めると、進学率が八十六%を越し、これらの数値は東高二十四年の歴史の中で最高だといふ。

生徒たちを見てみると、三年間の毎日毎日を、精一杯頑張つて過ごしていたように思う。多くの行事に追われ、勉強と部活動の両立に追われ、課外や模試に追われるそんな中で。

予習・復習、そして山のような宿題、完璧にやった人はいないと思う。しかし、やらなくちゃという気持ちは、一人一人がしっかり持っていたと確信している。そして、毎日毎日、眠い目をこすりながらも、僅かずつでも頑張りが続けたことは間違いない。

こつこつ気持ちを持った三百二十人全員の三年間の努力の積み重ねが、素晴らしい結果につながったのだといえる。

全員の三年間のこの努力のトータルが、東高二十四年の中で最高だったと言つてもよいのではないだろうか。

二十四期生は、平成十五年四月八日に入学し、十八年三月一日に卒業した生徒たちです。深

澤陽一校長先生から、三百二十名(男子二百名、女子百二十名)が入学を許可され、三百十六名が卒業証書を授与されました。

十五年度は高校入試が、期選抜(自己推薦)・期選抜・期選抜といふ新しい方法で実施されることになった年です。

また、東北の高校がすべて共学になった年でもあり、共学校で文武両道という錦の御旗が無くなってしまい、東高校の将来を心配する声も聞かれた年でもありました。

加えて、新教育課程になり学習内容もかなり軽減され、ゆとりある中学校生活を送ってきた子どもたちだということにもなります。

初めて尽くして、一体どんな生徒たちが入学してくるのだろうかかと期待と不安で一杯のスタートでした。

合格発表の日には、合格通知書を落とすという生徒がいたり、オリエンテーションの日には、提出書類の未記入や忘れ物がありあつたりで、前途多難を感じさせられました。

親子が並ぶ体育館で、折角のオリエンテーションなので、これからの三年間、夢と希望を持って学校生活を送りましょう、と優しく話をしようと考えていましたが、憂いから予定を変更して、厳しい話をした記憶があります。

以下に、三年間を振り返ってみたいと思います。
まず、高校生活三年間の基本

的習慣は、一年生の夏休みまでの指導で決まるといふ考えのもと、学年団全員で、クラスを超えて指導にあたりました。

入学式の翌日から八時十五分登校による「朝自習」を開始し、「日々題」、「週末課題」等提出指導の徹底を図りました。「確認テスト」等も全員受験を原則として、何日間も再試験を繰り返しました。

また、成績不振者に対しても基準に達するまで、何度も何度も追試験を実施しました。

六月中旬に行われた「教科担任会」で生徒たちの様子を聞くことができました。「明るく、元気が良く、真面目で何事にも積極的に取り組んでおり良好である。」とお話を頂き、ほっとしたものでした。この評価は、三年間始と同じものでした。

一学期末にはこれらを当たり前とする学校生活が身につけてきていたように思われます。それをさらに確実にしたのが、磐梯高原ホテルで行われた「学習合宿」だったと思います。自学自習の習慣を身につけるべく、一日十時間にも及び勉強は、「こんなに勉強したの生まれて初めて」という感想のとおり、勉強の大切さ、難しさなど何かを感じ取り、三年間の勉強を支える基礎になったものと思います。

外部模試の結果も気になるところで、先輩学年や他校の成績と比較しながら、学力を向上させるための方法を模索、検討し

たものでした。

二年になるにあたり、文系・理系のクラス分けを行いました。数学が好きだという生徒が多い学年で、東高としては初めて理系クラスが四つとなりました。

「朝自習」、「週末課題」、「確認テスト」等は前年度と全く同じ方法で実施し、殆どの生徒がそれを当たり前とする生活ができるようになっていたと思います。

二年時で特筆すべきことは、二学期から学力向上対策の一つとして、月一回程度「土曜学習会」を実施できるようになりました。

とです。改めて、部活動顧問の先生方のご協力に感謝を申し上げます。全員を対象に行いましたが、生徒たちも前向きに受け止めて真剣に取り組んでいました。頑張らなくちゃという意識を一層強くしたものと思っています。

超大型の台風と戦ってきた修学旅行も忘れられることは出来ません。

三年になってからも、一学期は朝自習を続けました。それは、習慣化された八時十五分登校を崩したくなかつたからで、それなりの効果はあつたものと思っています。

平常課外、休業中の課外、模試の連続で時間の経過が大変早い一年間でした。センター試験の受験会場が県立医科大学になり、大学や福島交通など何度も話し合いを行ったことなども、今では懐かしい思い出の一つになっています。

東高を知らない私を支えてくださった学年の先生方、多くのことで学年に協力をいただきました先生方に心からお礼を申し上げます。総括とさせていただきます。

校舎点描 その①

二十四期生は、文武両道に素晴らしい結果を出した学年でした。勉強に向かう姿勢は立派で、常に真摯な態度で授業に臨んでいました。

しかし、二十四期生の本領発揮は学校行事。九月の東校祭(非公開)での見事なパフォーマンス。最優秀賞をダブル受賞した、二組の映画「座頭市」を思わせるような迫力のダンスの数々と迫力ある和太鼓、三組のダンス二映画「アラジン」をテーマにした歌と踊りは見ているものの魂を揺さぶる最高の作品でした。そして、スポーツ大会でのクラス全体でまとまりの良さ、応援の立派さは最高でした。泥んこのサッカー、ハンドボール、ソフトボールも見事でした。

二十四期生は単に勉強だけでなく、あらゆる面で後輩達のよい手本でした。

平成17年度 部活動報告

● 運動部

野球部

第57回春季東北地区高校野球福島県大会東北予選	10	0	福島明成
1回戦	4	1	福島
2回戦	x 1	10	聖光学院
3回戦	x 4	9	福島商
代表決定戦	12	1	二本松工
同県大会	x 4	8	福島
3回戦	x 4	9	福島商
2回戦	x 4	8	福島
第87回全国高校野球手権福島大会	x 0	3	湯本
1回戦	x 0	3	湯本
第57回秋季東北地区高校野球福島県大会東北予選	1	0	安達
2回戦	1	0	安達
3回戦	9	0	川俣
準決勝	4	3	福島南
決勝	11	2	福島
同県大会	16	7	川俣
1回戦	12	2	郡山東
2回戦	x 5	9	東日昌平
3回戦	x 5	9	東日昌平
秋季東北高校野球選手権大会	8	1	安達東
2回戦	9	4	二本松工
3回戦	4	3	福島南
準決勝	x 1	5	聖光学院
決勝	x 1	5	聖光学院
サッカー部			
プリンスリーグ			
対羽黒	0	3	負
対遠野	2	2	PK負
対ベガルタY	0	3	負
対FCみやぎ	0	2	負
対福島工業	1	1	PK勝
対三本木農	0	2	負
対秋田商	0	0	PK勝
村青森山田	0	2	負
村盛岡商	2	3	負

対東北	1	1	PK負
対塩釜FC	1	1	PK勝
対高体連 県大会			
2回戦 対会津工業2	2	2	負
全国高校サッカー選手権大会			
県大会			
決勝トーナメント			
1回戦 対郡山商1	0	0	勝
準々決勝 村勿来工0	1	1	負
新人大会 東北地区大会			
1回戦 対安達	3	0	勝
2回戦 対二本松工2	0	0	勝
準決勝 対福島工	0	1	負
敗者復活戦 対安達	4	0	勝
3位決定戦 対二本松工	1	0	勝
県大会			
1回戦 対郡山商	0	1	負
水泳部			
東北高校水泳大会			
男子			
400Mリレー	6	位	
萩原・山内・氏家・八巻			
400Mメドレーメドレー	8	位	
萩原・山内・氏家・八巻			
200M自由形	7	位	
山内貴弘			
400M自由形	5	位	
山内貴弘			
50Mバタフライ	6	位	
八巻伸明			
200M個人メドレー	3	位	
萩原亮太			
200M個人メドレー	2	位	
萩原亮太			
卓球部			
高体連 県北大会			
男子団体			
2回戦 対福島南	3	3	
3回戦 対川俣	1	3	
準決勝 対福島	0	0	
女子団体			
2回戦 対成蹊	1	3	
3回戦 対聖母	3	0	

女子団体	第3位		
1回戦 対福島西	3	0	
2回戦 対安達	1	3	
男子シングルス	第7位		
吉川 尚志	3	位	
狩野 祐貴	5	位	
高橋 充	12	位	
佐藤 越萌	16	位	
香川 泰儀	27	位	
男子ダブルス			
高橋 充・狩野祐貴	3	位	
吉川尚志・佐藤越萌	14	位	
香川泰儀・青田隆志	15	位	
女子ダブルス			
鈴木聖佳・鈴木仁美	11	位	
県大会			
男子団体			
2回戦 対安積	1	3	
女子団体			
2回戦 対郡女附	0	3	
男子シングルス			
香川 泰儀	2	回戦敗退	
吉川 尚志	1	回戦敗退	
高橋 充	1	回戦敗退	
佐藤 越萌	2	回戦敗退	
狩野 祐貴	3	回戦敗退	
男子ダブルス			
香川・青田	2	回戦敗退	
高橋・狩野	2	回戦敗退	
吉川・佐藤	3	回戦敗退	
女子ダブルス			
鈴木・鈴木	2	回戦敗退	
県総体 県北大会			
男子団体			
2回戦 対保原	3	3	
3回戦 対県工	3	2	
準決勝 対川俣	0	3	
決勝 対聖光	3	0	
女子団体			
2回戦 対成蹊	1	3	
3回戦 対聖母	3	0	
男子シングルス			
第2位			

狩野 祐貴	3	位		
佐藤 越萌	10	位		
佐藤 昭徳	20	位		
女子シングルス				
鈴木 仁美	8	位		
県大会				
男子団体				
2回戦 対あさか開成	2	3		
男子シングルス				
狩野 祐貴	2	回戦敗退		
佐藤 越萌	2	回戦敗退		
佐藤 昭徳	1	回戦敗退		
女子シングルス				
鈴木 仁美	10	位		
鈴木 聖佳	19	位		
男子ダブルス				
狩野祐貴・佐藤越萌	5	位		
金子卓也・佐藤慎也	14	位		
女子ダブルス				
鈴木聖佳・鈴木仁美	8	位		
県大会				
男子団体				
2回戦 対会津	3	0		
3回戦 対あさか開成	2	3		
男子シングルス				
狩野 祐貴	2	回戦敗退		
佐藤 越萌	2	回戦敗退		
佐藤 昭徳	1	回戦敗退		
女子シングルス				
鈴木 仁美	2	回戦敗退		
鈴木 聖佳	2	回戦敗退		
男子ダブルス				
金子・佐藤慎	1	回戦敗退		
女子ダブルス				
鈴木・鈴木	2	回戦敗退		
陸上競技部				
県高校総合体育大会				
東北地区予選				
男子 総合1位				
トラック総合1位				
フィールド総合2位				
100m	1	位	加藤裕介	
200m	3	位	鈴木翔太	
400m	2	位	鈴木翔太	
800m	2	位	関根真騎	
110mH	3	位	國分広樹	
	1	位	加藤裕介	
	51.62	23.03	11.56	11.56

女子団体	第7位		
3回戦 対安達	3	1	
2回戦 対東稜	1	3	
男子シングルス			
佐藤 越萌	11	位	
佐藤 昭徳	14	位	
女子シングルス			
鈴木 仁美	10	位	
鈴木 聖佳	19	位	
男子ダブルス			
狩野祐貴・佐藤越萌	5	位	
金子卓也・佐藤慎也	14	位	
女子ダブルス			
鈴木聖佳・鈴木仁美	8	位	
県大会			
男子団体			
2回戦 対会津	3	0	
3回戦 対あさか開成	2	3	
男子シングルス			
狩野 祐貴	2	回戦敗退	
佐藤 越萌	2	回戦敗退	
佐藤 昭徳	1	回戦敗退	
女子シングルス			
鈴木 仁美	2	回戦敗退	
鈴木 聖佳	2	回戦敗退	
男子ダブルス			
金子・佐藤慎	1	回戦敗退	
女子ダブルス			
鈴木・鈴木	2	回戦敗退	

対福商	3	1	男子個人戦	磯部和幸(3)	7)	第5位
対本宮	3	1	磯部和幸(3)	7)	第5位	
対安達	0	3	三浦直樹(2)	1)	第9位	
ダブルス	(三位県大会出場)			佐藤佑一(2)	8)	第9位
(男子)	県大会出場			3名県大会出場		
シングルス	県大会出場			予選敗退		
(男子)	伊藤真吾					
(女子)	今野礼那(3位)					
県大会	土川靖央					
学校対抗(男子)	対県立聾学校			3		
対白河旭	0			3		
(女子)	対湯本			2		
シングルス	3					
(男子)	伊藤真吾ベスト16					
(女子)	今野礼那ベスト16					
県総体(県大会出場)	(男子シングルス)			伊藤真吾		
新人戦	県北地区			新人戦		
学校対抗(男子)	対福南			3		
対川俣	3			0		
対福工	1			3		
(女子)	(3位県大会出場)					
对本宮	0			3		
敗者復活戦	ダブルス			県大会出場		
対福島	2			3		
(男子)	石井・伊藤組			2位		
(男子)	船山・伊藤組			3位		
県大会	学校対抗(男子)			対好間		
対会津	2			3		
剣道部	高校総体			県北地区予選		
男子団体予選リーグ	2勝			2勝		
準決勝	対福島			2		
	3			第3位		

男子個人戦	磯部和幸(3)	7)	第5位
三浦直樹(2)	1)	第9位	
佐藤佑一(2)	8)	第9位	
3名県大会出場			
女子個人戦	予選敗退		
県大会	予選敗退		
男子団体2回戦	予選敗退		
対郡山商業	3		
男子団体3回戦	2		
対湯本	0		
	4		
男子個人戦	1・2回戦敗退		
県総体	県北地区予選		
男子団体予選リーグ	2勝1敗		
順位決定戦	2勝		
第5位	2敗		
女子団体予選リーグ	2敗		
敗退	予選敗退		
男女個人戦	予選敗退		
県大会	予選敗退		
男子団体1回戦	0		
対白河旭	4		
新人戦	一回戦敗退		
男子団体予選リーグ	2勝1敗		
順位決定戦	1勝1敗		
第6位	2敗		
女子団体予選リーグ	2敗		
敗退	予選敗退		
男女個人戦	予選敗退		
県大会	予選敗退		
男子団体1回戦	1		
対東日本昌平	4		
選抜優勝大会	予選敗退		
県北地区予選	予選敗退		
男子団体予選リーグ	2勝1敗		
予選敗退	予選敗退		
女子団体予選リーグ	2敗		
予選敗退	予選敗退		
弓道部	インターハイ		
県北地区予選	(明成高)		
個人	鈴木・本田他5名		
女子	宗川他7名参加		
男子			

団体女子第4位、男子6名	県大会			(明成高)		
男子個人第7位	山上 徹			団体：男女とも2回戦進出		
春季県北弓道大会(武道館)	女子個人第2位			平 諭美		
女子団体第2位	齋藤・西崎・菅野			県総体		
県北地区予選	(明成高)			女子団体		
第3位	鈴木・平・菅野			女子個人		
第2位	菅野陽子			男子団体		
第4位	山上・佐藤・阿久澤			県大会		
(あいつ総合体育館)	近の競技男子団体			第3位		
山上・佐藤・阿久澤	女子個人第6位			齋藤祥子		
新人戦	県北地区予選			(明成高)		
女子個人決勝進出	平 諭美			男子個人第8位		
山上 徹	女子団体第3位			(いわき)		
個人準決勝進出者	佐藤俊人			平 諭美		
決勝進出者	齋藤祥子			女子団体第7位		
県速的弓道大会	(河東町)			女子団体第2位		
齋藤・油井・清野成	女子個人第4位			齋藤祥子		
全国高校選抜大会(武道館)	女子団体第4位			東日本高校弓道大会(開成山)		
女子5人制出場	ジュニアテニス選手権			ダブルス地区大会		
4月4・5日	(福島市菅庭球場)			18才以下		
男子	第4位			牧野裕一・原田裕希組		

女子	第8位			齋藤彰子・齋藤彩夏組		
16才以下	男子			第1位		
大木翔太・渡邊仁也組	シングルス地区大会			4月10・11日		
(福島市菅庭球場)	18才以下			男子		
第7位	男子			第1位		
大木翔太	男子			第1位		
第4位	ダブルス県大会			4月23日(福島市菅庭球場)		
4月30日(富岡町庭球場他)	16才以下			女子		
ベスト16	佐藤絢乃			高校体育大会		
地区大会	5月7・9日(福島市庭球場)			男子		
団体戦	第3位			シングルス		
第5位	ダブルス			第3位		
第4位	女子			団体戦		
第3位	県大会			6月3・6日(福島市庭球場)		
6月13・15日(福島市庭球場)	地区大会			男子		
部シングルス	第2位			部シングルス		
部ダブルス	第1位			大木翔太		
大木翔太・植木元紀組	女子			第7位		
部シングルス	部ダブルス			第7位		
部ダブルス	第7位					

松野枝里子・高橋由紀組	部シングルス			第1位		
佐藤絢乃	県大会			7月9・10日		
(レジーナの森テニスコート)	女子			部シングルス		
ベスト16	松野枝里子			部シングルス		
部シングルス	第8位			佐藤絢乃		
県北ジュニアシングルス	8月1・2日			男子シングルス		
(福島市庭球場・成蹊高校)	第5位			松野哲士		
第6位	菅野達也			女子シングルス		
第5位	佐藤絢乃			高校新人体育大会		
地区大会	9月2・4日(福島市庭球場)			男子		
団体戦	第2位			シングルス		
第6位	松野哲士			第7位		
菅野達也	優勝			シングルス		
第4位	佐藤絢乃			県大会		
9月30・10月3日	(郡山庭球場・牡丹台庭球場)			女子		
団体戦	ベスト8			シングルス		
ベスト16	佐藤絢乃			インドアテニス選手権		
地区大会	12月3・4日(福島市庭球場)			男子U18シングルス		
第6位	菅野達也			U16シングルス		
第7位	大木翔太			第1位		
田口太郎	第5位			三瓶明仁		
女子U18シングルス	第6位			佐藤絢乃		

第7位	松野枝里子	第9位	齋藤彰子
ダブルス	第8位	佐藤絢乃・松野枝里子組	
県大会	1月14・15日	(いわき市庭球場)	
ダブルス	ベスト16	佐藤絢乃・松野枝里子組	
ハンドボール部			
第56回福島県春季ハンドボ			
ル選手権大会			
2回戦	対川俣	28	17
3回戦	対安積	22	15
準決勝	対郡山	26	27
三位決	対聖光	21	30
以上	第4位		
第51回県高等学校体育大会			
県北地区大会			
1回戦	対福島	40	11
準決勝	対福島工	26	15
決勝	対聖光	16	21
以上	準優勝		
県大会			
2回戦	対清陵	22	6
3回戦	対川俣	16	12
準決勝	対学石	10	23
以上	第3位		
第58回東北高校選手権大会			
1回戦	対湯沢	22	32
第58回福島県総合体育大会			
1回戦	対郡山	28	14
2回戦	対安積	27	16
準決勝	対聖光	25	37
以上	第3位		
第43回新人大会	県北地区		
1回戦	対福島西	25	23
準決勝	対本宮	27	16
決勝	対聖光	30	19
以上	優勝		
県大会			
2回戦	対郡山	22	17
3回戦	対郡山東	21	18
準決勝	対安積	31	25
決勝	対学石	26	28

以上	準優勝		
第29回東北高校ハンドボ			
選抜大会県代表決定戦			
リーグ戦			
対安積	25	22	
対聖光	24	32	
対学石	22	29	第3位
山岳部			
高体連関係			
県北大会			(東吾妻)
2パーティー参加			
県大会	(安達太良連峰)		
2パーティー参加			
新人県北大会			
(猫魔ヶ岳西吾妻山)			
2パーティー参加			
新人県大会	(安達太良連峰)		
2パーティー参加			
吹奏楽部			
5月4日(水)			
第22回定期演奏会			
5月17日(火)			
ウイン八重奏団公開レッスン			
(福島市音楽堂)			
6月3日(金)			
県北地区高校音楽祭			
(福島市音楽堂)			
6月4日(土)			
県北地区課題曲講習会			
(桜の聖母高)			
6月18日(土)			
県高校総合文化祭			
(原町市民文化会館)			
7月17日(日)			
吹奏楽コンクール県北大会			
金賞 支部代表			
(県文化センター)			
8月6日(土)			
吹奏楽コンクール県大会			
銀賞(郡山市民文化センター)			
9月2日(金)			
東桜祭演奏			(本校)

10月22日(土)			
きりめきレクチャーコンサート			
(福島市音楽堂)			
11月6日(日)			
こむこむミニコンサート			
(こむこむ)			
11月13日(日)			
アンサンブルコンテスト校内			
予選			(本校)
12月18日(日)			
アンサンブルコンテスト県北			
支部大会(県文化センター)			
・クラリネット八重奏 金賞			
・サクソス六重奏 金賞			
・金管八重奏金賞(支部代表)			
・フルート四重奏(支部代表)			
1月22日(日)			
アンサンブルコンテスト県大			
会(棚倉町文化センター)			
・フルート四重奏 金賞			
・金管八重奏 金賞			
合唱部			
6月3日(金)			
県北地区高校音楽祭			
(福島市音楽堂)			
6月12日(日)			
第3回定期演奏会			
(福島テルサ)			
6月17日(金)			
県高校総合文化祭			
(原町市民文化会館)			
8月10日(水)			
県北地区合唱講習会			
(福島市音楽堂)			
8月15日(月)～18日(水)			
夏季合宿(磐梯青年の家)			
8月26日(金)			
合宿コンクール県大会			
銅賞			(喜多方プラザ)
9月2日(金)			
東桜祭演奏			(本校)
12月17日(土)			
福島県アンサンブルコンテスト			
福島東高校A 奨励賞			
福島東高校B 奨励賞			

3月17日(金)～19日(日)			
春季合宿(磐梯青年の家)			
3月26日(日)			
福東・福島北郡山・喜多方高			
第6回ジョイントコンサート			(福島市音楽堂)
写真部			
7月11日(月)			
県北写真連盟合同撮影会・実			
技講習会			
松島方面(6名参加)			
11月11日(金)～13日(日)			
福島県写真展			
いわき市文化センター			
最優秀賞「和」(出品9点)			
浅野 陽菜(1年7組)			
来年度「全国大会(京都)」			
に推薦			
12月13日(火)～25日(日)			
県北写真展			
福島市写真美術館(出品8点)			
優秀賞「見上げた空」			
小林真里子(1年6組)			
優秀賞「カモメに大接近!」			
大概 歩美(1年5組)			
佳作「春の道」			
浅野 陽菜(1年7組)			
美術部			
《一学期》			
第59回福島県総合美術展			
6/17(木)～6/27(日)			
福島県文化センター			
13名応募			
平塚 稚奈 加藤 彩華			
吉田奈津美 渡邊 翠			
青木佳奈子 福田 敦			
長澤 理恵 佐久間彩未			
関 真由美 見城 藍			
安齋ひとみ 鈴木美沙子			
高橋 慶太			
入選			
加藤 彩華 長澤 理恵			
高教研美工部会県北支部主催			
県北フサン講習会(福島西高)			

6/18(土)	3名参加		
平塚 稚奈 渡邊 翠			
長澤 理恵 佐久間彩未			
《二学期》			
第24回福島県高総文祭美術工			
芸部門			
第32回福島県高等学校美術展			
10/18(火)～21(金)			
いわき市文化センター・平			
市民会館			
6名(6点)出品			
出品者			
平塚 稚奈 加藤 彩華			
吉田奈津美 渡邊 翠			
青木佳奈子 福田 敦			
合評会10/18(火)～21(金)	6名参加		
第73回福島県美術協会展			
7名応募			
平塚 稚奈 加藤 彩華			
吉田奈津美 渡邊 翠			
長澤 理恵			
研修旅行			
11/12(土)～13(日)			
「見学地」			
・横浜トリエンナーレ			
・プーキン美術館展(東京			
都美術館)			
・葛飾北斎展(東京国立博物			
館)他			
《三学期》			
第26回校美展			
H18/2/8(水)～13(月)			
福島市民ギャラリー			
*今年度制作作品を発表・公開			
し今年度活動を総括する。			



部活動を終えて

生徒会

「生徒会って...」

三年間生徒会をやつてきました。長いようで短くて、辛いよ
うで楽しい日々でした。特に公
開文化祭では、知り、体験し、
実行して、濃厚な時間を送りま
した...。

モノコメント作成のために屋
上の上つて、福島の街を眺めま
した。買い出しのために夜の四
号線を自転車爆走しました。
全く知らなかった人と友達にな
りました。先生と本気で戦いま
した。仲間や先生と語り合いま
した。そして、作ったモノを壊す
切なさや優さを知りました。長い
時間をかけて大きな「モノ」を
作りました...。

たくさん笑って、たくさん怒
鳴って...とにかく楽しかったで
す。そしてこの日々を私は一生
忘れません。

後輩達には、私たちができな
かった事に、もつともつと挑戦
してほしいと思います。青木・
羽田・ぬま・景太・穴澤。一緒
にいてくれてありがとね

(岡崎 麻衣子)

男子バレーボール部

引退してから早くも三カ月が
過ぎようとしている。あんなに
も長かった部活の時間が終わっ
てみるとこんなにも短い時間
なるなんて思ってもみなかった。

一年生の時「こんな一年は初
めてだ。」この言葉を何回聞い
たか分からない。僕は初め、
声も出さない、仕事も遅いはっ
きり言って最悪だった。しかし、
顧問の遠藤先生はあきらめず熱
心に指導してくださった。その
おかげで声も出るようになった
し、仕事もかなり速くなった。

そんな僕達が三年生になった。
初心者三人、チビが二人、デク
ノボウが一人、当然勝てるわけ
がない。しかし、遠藤先生はそ
こでも僕達が勝てるようになる
ような練習、雰囲気造りをして
くださった。そのおかげで試合
にも徐々に勝てるようになった。

そして、最後の大会、相手は
磐城二高。新人戦優勝したチー
ムである。「りきんで打て。」そ
れが遠藤先生の言葉だった。僕
達は一セット目おもしろきリス
バイクを打った。それがいいよ
うに決まって二十六対二十四と
デュースにまでもちこんだが負
けた。二セット目は完敗だった。

そして僕達のバレーボールは終
わった。

わった。

今は勉強、勉強の毎日を送っ
ている。僕にとってバレーボー
ル部で過ごした二年間は高校生
活の中でかけがえのないもの
になった。本当に楽しい二年間
でした。そして後を継ぐ二年生、
一年生、遠藤先生にしつかりつ
いていき最高のバレーボール生
活を送って下さい。

(菅野 雄太)

応援委員会

私が応援団のブラスバンドと
して過ごした三年間は、大変な
こともたくさんあったけど楽し
くてあつという間でした。

まずは応援歌指導です。二年
のときからブラバンとして参加
し、本当に貴重な体験ができた
した。なんといつても桜梅戦は
団にとつて大きな行事だし、一
学年みんなそろって応援するこ
となんてめつたにないことなの
です。ごかつたです。応援するこ
との楽しさを改めて実感しまし
た。野球の応援にもたくさん行
きました。三年生にとつて最後
の大会、聖光とあたりました。

少しでも力になれるようにがん
ばって応援しました。そして勝
ちました。そのとき私はブラバ
ンに入って、今まで一所懸命
援してきて本当によかつたと思

わった。

書道同好会

私達、書道同好会は十七年六
月に五人の仲間と橋本洋子先生
の六人により設立されました。
まだまだ若い部であり、実績も
少ないですが、それぞれが精一
杯努力してきました。

特に今年の公開文化祭では、
日頃の作品を展示すると共に、
体験コーナーも作りました。た
くさんのお客さんとガラス作品
を作ることができました。喜ん
でいただけ、私達も本当によ
れしがつたです。

また、数々の作品展に出品し
て他校の人たちとふれあえたこ
とも大変貴重な体験であつたと
思います。部員全員でいわきで
開催された総合文化祭に行つた
のはとてもいい思い出です。

一、二年生にはこの同好会を
ぜひ部活に昇格させてほしいで
す。とても有意義な活動を送れ
たと思います。(岡崎 麻衣子)

野球部での三年間の活動を終

野球部

野球部での三年間の活動を終

えいるいるな思いが込み上げて
きました。楽しかつたこと、つ
らかつたこと経験したことすべ
てが僕達を成長させてくれまし
た。関川監督、深瀬部長、半沢
コーチには感謝の気持ちでい
っぱいです。そして、応援してい
ただいた保護者の皆さん、東高
出身の先輩の方々本当にありが
とございました。

夢であつた甲子園をテレビで
見て

「自分達もあそこでやりたかつ
た」と思うことが何度もありま
した。でも、この夢を先輩達が
かなえてくれると信じています。
今まで先輩方の思いを胸に後輩
達には頑張りしてほしいです。そ
して、これから先ずつと東高野
球部を応援していきたいです。

(小林 源太)

「ハンド人生」

僕たち三年生の部活動はいろ
いろな人に支えられてきました。
入部当初、経験者が少なかつ
た僕たちは、剛先生や先輩たち
に指導してもらい、ハンドボー
ルの基礎を教えてくださいまし
た。先生や先輩の丁寧な指導は、今
も僕たちの心の中に生きていま
す。また、僕たちが部活の最上
級生になると、人数も少なかつ

ハンドボール部

僕たち三年生の部活動はいろ
いろな人に支えられてきました。
入部当初、経験者が少なかつ
た僕たちは、剛先生や先輩たち
に指導してもらい、ハンドボー
ルの基礎を教えてくださいまし
た。先生や先輩の丁寧な指導は、今
も僕たちの心の中に生きていま
す。また、僕たちが部活の最上
級生になると、人数も少なかつ

えいるいるな思いが込み上げて
きました。楽しかつたこと、つ
らかつたこと経験したことすべ
てが僕達を成長させてくれまし
た。関川監督、深瀬部長、半沢
コーチには感謝の気持ちでい
っぱいです。そして、応援してい
ただいた保護者の皆さん、東高
出身の先輩の方々本当にありが
とございました。

夢であつた甲子園をテレビで
見て

「自分達もあそこでやりたかつ
た」と思うことが何度もありま
した。でも、この夢を先輩達が
かなえてくれると信じています。
今まで先輩方の思いを胸に後輩
達には頑張りしてほしいです。そ
して、これから先ずつと東高野
球部を応援していきたいです。

たので、後輩に助けられることもたくさんありました。力のあ
る選手が多く、試合中でも大いに信頼のおける後輩でした。

先輩たちの悔しさをバネに目標とした「県制覇」でしたが、成し遂げることはできませんでした。しかし、後輩たちは限りない可能性を秘め、大いなるやる気を持っています。必ずバスケット部に続き、夢のインターハイに進んでくれるでしょう。活躍を期待しています。

(渡辺 康英)

演劇部

今、三年間の活動を振り返ってみると本当にあつという間の三年間だったように思います。入学した時先輩方が引返し、一年生二人という小さな同好会が今や、十一人の個性豊かで演劇が好きな部員を抱える部活動に発展することができました。コンクールは勿論、幼稚園や老人福祉施設への訪問は、数多くの活動の中でも貴重なもので、地域のたくさんの方々の温かさや笑顔に触れることができ私たちが自身にとっても今後の活動へ向けての大きな糧となりました。しかしこのような活動の一つ一つは目に見えない本当にたくさんの人達の協力と支えがあった

からこそ成し得たものだと思っ
ています。顧問の伊藤先生、渡
邊先生をはじめ諸先生方、保護
者の皆様、そして大きな力になっ
てくれた友達みんなにはたく
さんの感謝の気持ちでいっぱい
です。そして最後にどんなとき
でも励まし、支えてくれた部員
のみんなへ、本当にありがとう。

(羽田 晃子)

社会部

加藤先生 あの時のことを覚えて
いますか。入学して間もな
い頃、先生から入部のことです
をかけられたとき正直やってい
けるか不安でした。でも、今で
は本当に社会部に入ることがで
きて良かったと思います。活動
の一環として応募することになっ
た小論文コンクールのために、
夏休み職員室の片隅で何度もイ
ラク戦争のことや世界情勢につ
いて、たくさんのお話をして頂
きました。話合いの中で、私は
物事を一方向から見ることではな
く多面的に見ることの大切さを
教えて頂きました。イラク戦争
という重いテーマを小論文に選
び、いろいろと調べていくうち
に自分の無知を痛感し、無関心
であったことへの罪の意識すら
感じるようになりました。
先生の話をもう聞くことがで

きないと思うと本当に淋しいで
す。でも、社会部として活動で
きたことはかけがえのない思い
出です。先生、本当にありがと
うございました。(羽田 晃子)

サッカー部

僕達サッカー部は、夏のイン
ターハイが終わり、冬の選手権
へ向け日々練習をしています。

インターハイでは優勝すること
ができなかったものの、県三位
になり、選手権の一次予選が免
除で十月の二次予選からとなり
ます。この大会は、昨年のリベ
ンジでもあり三年にとっては高
校生活最後の大会でもあります。
みんな悔いを残さないよう今ま
で以上に集中し自分に厳しく練
習に取り組んでいます。また、
受験勉強と両立してやっていか
なければならぬのでどちらも
手を抜かず頑張っていきたいで
す。

このメンバーでサッカーをや
れるのも本当に最後になるので
チーム一丸となって絶対国立の
ピッチに立とう！(坪谷 洋平)

男子テニス部

入部当初には同学年で二十四
人もいたはずの部員は、最後は
五人でした。すごいですねえ。
僕はバスケ部志望でした。で

も、坊主が嫌だったのでやめま
した。完全な素人だった僕はテ
ニスの王子様の世界しか知らな
かったけど、すぐに目が覚めま
した。

初めてのランク戦は奇跡の五
位でした。そして公式戦初出場
(ダブルス)、初勝利(二回戦敗
退)。

先輩とダブルスを組むなどい
ろいろあり、自分達の代になり、
新人戦で初めての県大会出場。
東北大会を狙っていた団体戦が
二回戦敗退。自分は一回も勝て
ませんでした。大会後、部長が
引退し、副部長だった僕が部長
を継ぎました。今はやってよかつ
たと思いますが、その時は結構
嫌でした。

この時期から安定して県大会
に進めるようになりました。ま
た、部員も減り始めました。三
年生になる直前の大会で、初め
て賞状をもらいました。県北三
位。自分の努力が形になったこ
とが本当にうれしかったです。
県大会ではシードがつかました。
初戦敗退でしたけど、ここで同
学年の部員が五人になりました。

最後の大会、第三シードの僕
は、二回戦で本気で負けそうに
なりました。泣きそうでした。
一応四位。この調子のまま、県
大会ではボロ負け。悔しかった。

それで終わりです。

こんな三年間でした。辛い経
験も今では楽しい思い出だし、
学んだことはとても多いです。
先生や仲間から感謝してい
ます。それが今の気持ちです。
(菅野 達也)

卓球部

引退して、もう二ヶ月。受験
勉強が本格的になった今、何か
物足りない感じがする。そう、
部活だ。良い仲間・先輩・後輩
に恵まれ三年間本当に楽しかつ
た。一度もやめたいと思つたこ
とがなかった。それもこれも一
緒に頑張ってきた仲間のおかげ
だと思つた。

振り返れば、先輩方が引退し
てから初めて臨んだ団体戦での
惨敗、あの時の悔しさがそれか
らの部活の原動力になった気が
する。みんなでメニューを決め
たりもした。優柔不断な僕を助
けてくれ、ついてきてくれたこ
とに本当に感謝している。みん
などうもありがとう。

大会では毎回みんな一丸となっ
て戦えた。誇れる成績ではない
けれど自分達なりに精一杯でき
た成果であると思う。

僕にとって東校卓球部での三
年間は何ものにも代え難い宝物
だ。後輩達にも、後からそう思

英語同好会

「英語」

えるように、また、納得いく結果を残せるように頑張っていました。最後に、今までご指導して下さった顧問の先生方、先輩方本当にありがとうございました。(金子 卓也)

私の英語同好会は週に一回の活動でしたが、はつきり言ってほとんど何もやりませんでした。英語をべらべら話す先輩方にあこがれて、一生懸命話そうとしましたがやはり無理でした。今思うと英語って書いても話せないんじゃない?と。書けもしない私にそんなこと言う資格ありませんが。

今までの数少ない笑活動のなかで一番楽しかったのは、エリン先生のお別れパーティです。みんな日本というか家伝統の食べ物を持ちました。ちなみに私は何も作りませんでした。フルーツのキウイを切ったくらいでしょうか。何はともあれ、あの日が一番英語をしゃべっていた日でした。受験が終わったら、英語を「話す」ほうにも力を入れていきたいです。(齋藤 ゆかり)

弓道部

「部活動」

私が部活動を引退してから二カ月程経ちました。高校生活の中で部活動の占める割合は結構大きなもので、それが急になくなる何だか複雑な気持ちになります。引退してこれまでの部活動を振り返ると、大変な事もあったけれど、全部まとめて楽しい時間でした。

現在部活動を続けている一・二年生は、毎日の勉強と部活の両立で大変だと思えます。けれど、どちらも妥協せず、毎日を全力で楽しんで下さい。そして、部活動で仲間達と一緒にいられる今の時間を大事にして下さい。弓道部は元気の有り余った活発な人達の集まりなので、活動は大変だと思えます。なので、部長は遠慮なく皆を顎で使って、皆はこれまで以上に団結や練習中の意識を強めて、頑張ってくださいと思います。(菅野 直樹)

女子テニス部

部活を引退してまず最初に思ったことは、自分は本当にテニスが好きだった、ということだ。日々の練習はつらくて、途中何度も辞めようと思った。でも、今思うと、辞めないでよかった。

テニス部に入ってよかった、と心からそう思う。

テニスを通じて得た先輩、後輩、そして友人は私にとって大きな存在である。私が部長になって不安を感じていると適切なアドバイスをしてくれた先輩。頼りない私についてきてくれた後輩。一緒に部をまとめようとしてくれた友人。みんなとテニスができてよかった。テニス部に入ってよかった!!(高橋 由紀)

ソフトボール部

引退して二ヶ月近く経った今の自分の心境は、何かが足りない!!とそんな気持ちです。

自分が部活をやっていた二年と三ヶ月という期間はとても早く過ぎてしまった気がします。それに、今までこんなに熱中もはなかったかもしれない。しかし、時にはつらい事もたくさんありました。そんな時は多くの人達に助けられ、ここまですることができました。特に、部員が少なく不安だった時もあつたけど、四月になって多くの部員が入ってきたのでとてもうれしかったです。

最後に、先輩や先生方々にはとてもお世話になりました。ありがとうとございます。一・二年生は自分達の目標に向かってが

んばってほしいです。応援してます。ソフト部に入ってた皆さんの事を学ぶことができて、本当によかったです。(山口 大輔)

美術部

皆が力を合わせて一つの事成し遂げる、素敵な響きです。でも私は個人プレーの多いこの部に入部しました。自分の引き起こした結果で喜ぶのも、傷つくのも自分だけだから、そのせいで部員同士険悪になる事もないからです(プライド高い人なら別なんでしょうけど...)。

共に創る一体感は無かったけれど、芸術が好きなのも、学年の悲しむべき厚い壁もあまりなかったし、迫り来るメ切に嘆きながらも、余計な負担も緊張もなく、各々乗り切る事が出来ました。

動機はただ足手まといのレッテルに怯えていただけなのかもしれない。逃げ出したかったけなのかもしれないけれど、良き先生、良き先輩、良き後輩、良き友人と出会って本当に良かったと思っています。素晴らしい居場所を有難う御座いました。(吉田 奈津美)

柔道部

僕は、この東高での三年間の部活動を通して、仲間という存在の大切さを改めて感じる事ができた。入部当初は、仲間意識を感じる余裕が無く、練習をこなすのが精一杯だったが、二年生になってからは部員の誰もが自分にとってかけがえのない存在であることが少しずつ実感できるようになっていった。特に、僕が去年の夏に入院していたときに部員全員でお見舞に来てくれたときは、本当に感動した。猛暑の中、自分達が来たことがなく、どこにあるかもよく分からない病院にでも僕のために駆けつけてくれる。僕にはそんな素晴らしい仲間達がいたので身をもって実感できて、それが嬉しくてたまらなかった。仲間達と一緒に練習してきたからこそ、退院してからも強くなれたし、最後まであきらめずに戦い抜くことが出来た。仲間の大切さを後輩達にも実感してもらいたい。そしてその仲間を思いやる心を忘れずにこれからも東高柔道部を発展させていってほしい。(吉田 誠)

女子バドミントン部

六月三日、中学時代から続け

て来たバドミントンとの別れの日だった。大学で本格的には続ける気がなかったからだ。

県大会で負けた後、自分への怒りと悔しさで一杯だった私を責める仲間はず一人としていなかった。その時県北予選の初戦を思い出していた。フルセット、セッティングを制してもぎとつた勝利だった。体力の限界、意識朦朧、その中の一人きりでのプレー。不思議と負ける気はしなかった。コートサイドからの仲間の声援が、大好きな先輩達の思いが、すべてが力になった。シード校を破り、三位になった。嬉しかった。

三年間を通して、仲間の大切さを身にしみて感じた。楽しい時も苦しい時も、いつでも隣には支えてくれる仲間がいた。今、その仲間達に心から感謝する。ありがとう。(斎藤 みな美)

岳部

部活も引退し、これからは本格的に受験勉強に取り組み時期になりました。今までのことを振り返るといろいろあることがありました。その中で特に印象に残っていることは夏と冬の合宿です。夏は遠くのお山へ足を運んで、冬はスキーやスノーボードをやりました。このような貴重な

な体験はとても良い思い出になりました。

これからは受験勉強で忙しくなると思うけど、志望大学に合格できるようにがんばりたいと思います。

最後に顧問の先生方、こんな僕を最後まで面倒みていただきありがとうございます。(加藤 純)

女子バレーボール部

最後の大会でみんなの顔に咲いた最高の笑顔。これを見た時は私大きなことを遣り遂げた充実感でいっぱいになった。この時の思い出はきつと一生忘れな

いと思う。共に三年間を乗り越えてきた仲間は本当にいい奴らである。しかしバレーをやっていく中で

「いい奴」だけでは勝利を掴むことは難しい。先輩との初めての県大会を経験した私たちは新チームの好スタートをきった。

それなのに思うように結果を出せなくもがいていた。そんなとき合言葉になったのが「笑顔」である。私たちは自らの強い意志を笑顔に表すことで、相手にも自分にも打ち勝つ強さを得た。練習でも試合でもみんなが笑顔になるとバレーが更に楽しくなった。そして先輩から教えていた

だいたチームプレイの大切さを実感することができた。

東高の女バレーの歴史はまだまだ浅い。だから先輩たちには常に新しいことにチャレンジしてほしい。ただ一つ、「笑顔の伝統」だけは伝えていってほしいと思う。つらくなったら笑え!! そうすれば必ず勝利は見えてくる。自分に負けるな!! (斎藤 真木)

陸上競技部

三年間を振り返って「この三年間は、陸上に本気で打ち込めた三年間だったと思います。」

東高の陸上部の環境や雰囲気が高かったです。陸上はずっと続けてきましたが、ここまで真剣に取り組めたのは高校が初めてです。周りにいる人は皆ハイレベルで練習も厳しかったけれど、その自分自身を高めることができたと感じます。

部長にも選ばれて、大小様々な仕事を任せられるようになり、いい経験になりました。その分苦労もしたけれど、陸上だけでは学べない、多くのことを学ぶことができました。

大変なこともあったり、負けて悔しい思いをしたりもしましたが、毎日が充実した楽しいも

のでした。引退したら、改めてそう感じていきます。東高で陸ができて、本当に良かったと思います。(国分 広樹)

剣道部

時が過ぎるのは本当に早いものだと、改めて感じています。東高内で迷子になっていた二年前の春、格技場で部活をしていた先輩を見て、その迫力に圧倒されたのを、昨日のこのように覚えていきます。そんな先輩方を二度送り出した自分達が、気付けば逆に送り出される立場に立っていました。

送り出される立場に立つた今、一番強く想うことは、東高に入っ

て本当に良かったということですね。生徒のことを、本気で親身になって考えてくださった顧問の先生方、厳しく、そして優しくご指導してくださった多くの先輩方、そして、こんなにも頼りない部長を見放さず、最後までサポートしてくれた副部長はじめたくさんの部員。こんなにも温かい人達に囲まれて、二年間の剣道部生活を送ることができて、本当に幸せでした。

ありがとうございました。(三浦 直樹)

校舎点描 その②

存続が危ぶまれた応援団(委員会)。今年度の団長も二年生。一年次から先輩達の敵しい? 指導に耐え、平成十八年度の校歌指導も立派に? やり遂げました。

その成果を発表する「桜梅戦」が四月十五日(土)、信夫ヶ丘球場で開催されました。試合は序盤から我が校が攻守に圧倒し、力の差を見せつけました。

応援団はというと、福高の応援にも負けず、実に見事に一年生の応援をリードしました。試合後の凱歌を誇らしく、声高らかに歌う一年生の姿には、前日までのおどろした表情はもうありませんでした。しかし、試合後に団長と女子生徒がにこやかに記念写真を撮っている姿には違和感を感じましたが...

さて、この数週間後、団長が詠んだ一句。『応援団桜とともに 散る人気』

部活動訪問

現在、本校の運動部は非常に盛んな状況にあります。全国的に有名なサッカー部や陸上部の活躍だけでなく、バスケットボール部、ハンドボール部、柔道部をはじめ多くの運動部が福島県のトップレベルにあります。ここ数年は全ての運動部がインターハイの県大会に出場し、壮行会ではステージ上に選手が上がりきれない状況が続いています。ここではインターハイの県大会を目前に控えた5月に、ハンドボール部、柔道部の練習取材した内容を報告します。

柔道部

Q 「新人戦」からの成績を簡単に教えてください。

A 新人戦の男子団体では県北大会で優勝し、県北大大会では三位でした。個人でも県北大大会では七三kg級で千葉寛史、一〇〇kg級で白石裕紀が優勝し、その他の階級でも二位が二人、三位が一人でした。

Q 「インターハイ県北大」の結果と感想を教えてください。

A 男女ともに団体は二位でした。男子個人では七三kg級で吉田誠、一〇〇kg級で白石裕紀が優勝し、二位が二人、三位が三人でした。女子個人では日下部典子が優勝、二位が一人でした。

Q 現在の部の様子を教えてください。

A 現在は三年生四人、二年生八人、一年生七人のメンバーで活動しています。

Q 昨年の新人戦の団体戦で三位入賞をしたことで、自分に自信が持てるようになった人々も多くなります。いい雰囲気練習しています。

顧問を紹介して下さい。



A 顧問の片平先生は、僕達部員のことをきちんと考えてくれる先生だと思えます。一人一人に合った指導をしてくれるので、先生の一言がきっかけで実力が伸びている部員も少なくありません。

Q 「インターハイ県北大」への決意を述べて下さい。

A 個人戦、団体戦ともに優勝目指して全力を尽くします。



片平貴司監督

ハンドボール部

Q 「新人戦」からの成績を簡単に教えてください。

A 新人戦では県北大会で優勝し、県大会では二位でした。春季大会では県で三位でした。

Q 「インターハイ県北大」の結果と感想を教えてください。

A 結果は二位でした。決勝では終盤に気持ちの面で負けている部分がありました。

Q 現在の部の様子を教えてください。



A 三年生は最後のインターハイなので、三年がチームを引っ張っています。そして二年生の支えも大きいです。

Q 顧問を紹介して下さい。

A 先生方は、皆、厳しい指導をしてくれます。しかし、時に僕たちの心に響く温かいお言葉をかけてくれます。

Q 「インターハイ県北大」への決意を述べて下さい。

A 初戦から力を十分出しつつ、聖光、学石を倒したいです。



旧職員あいつ

佐々木茂明

私の嫌いな言葉は「後悔」です。「あのとき...してたらなあ」という言葉。では、私が後悔しない為にしてきたことは、人生の選択にきたときに、友達や先生、親の意見を聞き、参考にするのはいいのですが、最終的には、自分の納得のいく答えを出し行動することです。もし、この答えが間違っていたとしても自分の納得して出した答えだから、そこから生まれるのは後悔ではなく、「次はこうすればいい」「こういつ答えもあったんだ」という次に生かせる経験値だと私は思います。後悔は中途半端に考えて出した答えから行動したときに生まれるもので、後悔からは何も生まれないと私は思います。

私は、今まで生きてきて後悔はないと言える。みなさんも、高校卒業次、五年後、十年後、自分の人生を振り返ったときに悔いのない人生だったと思えるように、自分の納得のいく答えを出し行動してみてください。

栗城 健彦

福島東高校で過ごした日々を振り返ると、在校生たちが授業

を大切に、自分の目標に向かう真摯な姿は感心するばかりでした。特に三年生は毎日遅くまで教室や図書館で勉強し、わからない箇所は先生に質問をするなど、受験の最後まで諦めずに頑張ってきた様子は、今でも心に残っています。そしてそのひたむきさは部活動においても同じでした。一人一人が自分の目標としてチームの目標のために毎日取り組み、互いに助け合っていく姿はさすが福島東高校だと誇りに思っていました。

この福島東高校での数多くの経験から私自身多くのことを学ぶことができたと思っています。福島東高校の伝統ある文武両道をより高く実現していく道をこれからも絶やさずに、日々の学校生活を有意義なものにしてください。心援しています。

野中 幹夫

十八期生の担任としての二年間、二十一期生の学年主任としての三年間、進路指導主事としての三年間の計八年間、とても充実した日々でした。多くの素晴らしい生徒達と出会い、たくさん思い出を作ることができました。私の貴重な宝です。何かメッセージをこいつことなので...常に「笑顔」を忘れずに、

「素直」な心で、何事にも「集中力」で取り組んで下さい。皆さんの活躍を楽しみにしています。

平木恵里子

今年四月に県立保原高校に赴任いたしました。福島東高校に八年間お世話になりました。楽しい思い出が数多くできました。荷物を整理すると、東高の思い出の断片が現れて胸が熱くなります。東高在職中に本当に幸せな日々を送ることができたのは、支えていただいた先生方のおかげであつたと、心から感謝しております。東高の先生や生徒は、団結力・順応性、バランス感覚に優れ、精神面の強さが極立っていると思います。学校の雰囲気

が明るく、クラスが明るく、授業が楽しかったことは私の支えとなりました。部活動や委員会でも、意欲と能力のある生徒に恵まれて、幸せな年月を過ごすことができたと感じています。これからも東高の教職員の皆様、卒業生、在校生に幸多いことをお祈りしております。

佐藤 直子

八年間お世話になりました。十七期から二十期までのみなさんと先生方には、心から感謝しています。

東高生は、「明るく元気で思いやりがあり、正直で素直で一生懸命」だと思います。全部あてはまる人もたくさんいるし、

平成18年度 転出者

職名	氏名	転出先	教科
主幹兼事務長	渡邊 明	退職	
教諭	佐藤 直子	安達	国語
教諭	渡部 あえか	安積	地理歴史
教諭	吉田 さゆり	大笹生養護	数学科
教諭	野中 幹夫	福島商業	理科
教諭	安斎 一喜	あさか開成	理科
教諭	齊藤 勝	船引	保健体育
教諭	平木 恵里子	保原	英語
常勤講師	佐々木 茂明		数学
非常勤講師	星 信夫		数学
時間講師	栗城 健彦		公民
時間講師	石河 宏美		保健体育
技能員	半澤 節子		
スクールカウンセラー	横塚 怜子		

平成18年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
事務長	大堀 満夫	南会津農林事務所	
教諭	日下 淑子	盲	国語
教諭	武田 重信	喜多方	地理歴史
教諭	阿部 健一郎	郡山萌世・通	理科
教諭	鈴木 清文	保原	保健体育
教諭	渡邊 ひろみ	保原	英語
教諭	平澤 貞博	保原	数学科
教諭	渡邊 吉城	白河	理科
常勤講師	植田 久美子		保健体育
臨時職員	佐藤 純子		
スクールカウンセラー	板垣 昭子		

全部でなくてもいくつかはあてはまる人ばかりです。そして、私の知る東高生には、「自分で考え、行動する」力がある人が多かったように思います。誰かに教えられたというのではなく、部活動などの先輩の姿を見て、学んでいったのでしょうか。みなさんには、どんな時も、全体や少し先を見て、自分で考え行動する、そんな人になってほしいし、そんな人であり続けてほしいと思っています。

八年間を過ごし、東高は私にとって特別な学校になりました。卒業生のような気持ちで、これからも東高をずっと応援していきたいと思っています。

「わくわく」

S・C 横塚 怜子

桜が好きだ。とにかく好きだ。毎年京都の醍醐寺のしだれ桜を観に行くのをとても楽しみにしていた。

今年は開花予想が発表されても咲かない桜があちこちにあり、時期を逸してとうとう京都へ行くのをあきらめた。

我が家の桜も枝張りは優に十メートルを越え、ご近所の方々に愛でていただくまでになった。

訃報



去る七月二十一日、加藤国彦先生が急性くも膜下出血のためご逝去されました。平成十四年度、地歴・公民科の教員として郡山商業から本校へ異動されて来られました。加藤先生は温厚篤実な性格であり、生徒、保護者、同僚から厚く信頼され、また、その専門性は高く教材研究の質の高さは県内随一でありました。さらに、三学年主任として学校運営全般にも携わってこられました。本校の「総合的な学習の時間」の各事業を企画立案し、軌道に乗せたのは先生の功績です。

お別れの会には多くの在校生、卒業生も訪れ、先生のご逝去を悼みました。火葬場へむかう途中、東高に立ち寄り、吹奏楽部による校歌の演奏でお見送りをしました。

スポーツ大会の表彰式で生徒と一緒に楽しそうに飛び上がったウエーブをしていた姿が忘れられません。文化祭での電車男の演技が忘れられません。加藤先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

春の低温続きのために今年は

我が家の桜で開花、三分咲き、七分咲き、満開とその時々の様態の変幻を堪能することができた。

桜というのは不思議な花である。人の想いを如何にも優雅にそして残酷に表現する。

「西行のように如月の望月に死にたかつたら、散る月から逆算して二週間だけ水で生き、静かに死ぬる方法もあります」といった医者の言葉に心が揺れた。

教育実習生

教育実習を終えて

東京学芸大学 F類 自然科

二十一期生 持館 智

三週間の実習を経て、大学入学当初からの目標であった教員への強い志が一層高まった印象である。大学の付属高での実習を経験し、一度目の実習ではあったが、やはり最初は手探りの状態で実習に臨んでいた。慣れるまでに時間を要してしまっただが、先生方や生徒たちのあたたかい雰囲気のおかげで、今では最高の実習であったと感じる。さらに、教員を目指して学ぶ手助けをして下さった職員の方々・稚拙な我々実習生と積極的に接してくれた後輩たちには本当に感謝している。

実習を終え、再び教員採用試験に向けた学習を再開し、七月二十五日、福島東高校を会場とし、試験を受けた。

配点や合格点は一切不明なので、不安なまま結果を待っている状況である。必ず合格を手にし、お世話になった先生方に吉報を伝えたいと考える。

実習を経て感じたも

平成18年度 教育実習生

氏名	実習教科	実習クラス
菊地 愛	数 学	2-7
佐藤 めぐみ	国 語	1-1
渡邊 ひとみ	化 学	2-5
小島 幸	日 本 史	2-1
歌川 伸 幸	英 語	1-8
鈴木 亮	日 本 史	2-4
持田 智	化 学	2-8
中田 裕 規	現代社会	1-2
茂木 理 沙	国 語	1-7
重野 剛 志	数 学	2-6
大月 哉 澄	数 学	1-4
宗像 真 澄	家 庭	1-5
齋藤 香	世 界 史	1-6

校舎点描 その③

九月二日(土)は三年に一度の公開東校祭。今年度のテーマは「桜煌鳳凰」。メインのミニイベントは鳳凰が地上から大空に舞い上がることをイメージした素晴らしいもの。来場者から称賛されました。

前日の仮装行列から晴天に恵まれ、多くの来場者にぎわいました。改めて、本高に対する地域や中学生からの関心の高さがうかがえました。ジェットコースター、自主制作の映画、ダヴィンチコードをテーマにした迷路、お化け屋敷、その時歴史が動いたなど娯楽性の高いものから、プラネタリウムなどの完成度の高いクラス発表がなされました。文化部も美術部、書道同好会などの展示から、合唱部や吹奏楽部のステージ発表まで文化の質の高い東校祭でした。

二十五期生にあたる三年生のパワーとリーダーシップ、東高生の素晴らしいエネルギーに脱帽しながら、閉祭式の打ち上げ花火の美しさに酔いしれました。

同窓生訪問

東高の一期生も不惑の年を越え、同窓生の各界でのめざましい活躍の様子が事務局にも数多く届くようになりました。それで今回、地元経済界で活躍する同窓生の一人として三期生の金子與志人さんへのインタビューを行いました。金子さんは、同窓会副会長としてだけでなく、昨年度の「様々な職業人に聞く」でも講師をつとめられ、後輩達に職業人としてのメッセージを熱く伝えてくださいました。なお、このインタビューは六月二十八日に本校校長室にて行ったものです。

現在の役職を教えてください。
 福島日産自動車株式会社、日産部品福島販売株式会社、株式会社福島情報サービスの代表取締役です。また、今年度は社団法人福島青年会議所の理事長を務めています。

福島日産自動車株式会社について教えてください。
 日産自動車の新車や中古車の販売から、自動車のメンテナンスなどお客様のアフターケアのサービスを行っています。現在福島県内で四十店舗、社員は約七〇名の会社です。

青年会議所とはどのような組織なのですか？
 経済人の団体のように誤解さ



れることが多いのが経済界とは別の団体です。「明るい豊かな社会を築き上げよう」

のスローガンのもと、地域のボランティア活動を行ったり、青少年の健全育成をめざして様々な事業を展開しています。福島の花火大会やわらじ競争、私馬に乗せられた開花来馬宣言のイベントなどは青年会議所が音頭をとって始まった事業です。今年度は五期生の手塚健一君や三宅一秀君、森崎英五朗君など多くの同窓生に助けられながら運営をしています。

期待の若手財界人としての抱負をお聞かせ下さい。
 今まで多くの人にお世話になってきました。その分をしつかりと社会に恩返しをしていきたいと考えています。現在の企業は利益だけを追求するのではなく、どれだけ社会に貢献できるかが問われています。私の会社でも、交通遺児の方々に対して経済的なご支援をさせていただいたり、社会福祉協議会への活動にも協力をさせていただいております。

高校時代の思い出は？
 部活動と遊びばかりの高校生活で全く勉強もせず、先生方を困らせてばかりの生徒でした。特に、三年生の時の担任、千葉

金之助先生にはお世話になりっぱなしでした。また、橋本邦夫先生の「橋本塾」では古典の勉強をみっちりしごかれました。かなり自由な高校生活を送っていました。部活の合宿などで仲間達と熱く語り合ったことが今では一番の思い出です。

部活動の様子を教えてください。
 私は三期生で、剣道部に所属していました。三期生は新人戦の県大会、団体戦で準優勝したのが最高でしたが、四期生は新人戦で団体戦、個人戦ともに県大会優勝を果たしました。監督の星本文先生は剣道の素人でしたが、一緒に汗を流して練習したことは楽しかったし、精神的なアドバイスは心強かったですね。また、最後の大会で負けた夜、磐梯熱海温泉の宿での出来事は生涯忘れられないと思いますよ(笑)。最高の仲間達でした。「さまざまな職業人に聞く」



東高時代の金子さん(左から2番目)

の講師を務めての感想は？
 今の東高生を見て、つくづく大変だと感じました。それは勉強が大変だということではなく、これから進学や就職をするにしても、私達とは比べものにならないほど大変な時代に立ち向かっていかなければならないのかと思うと、思わず「がんばれ」と言いたくなりました。

後輩達に一言
 “その時々”を大切にしてください。

恩師の先生方に一言
 当時は大変迷惑をおかけしま

S S S ひとひら

(サタデー・スペシャル・セミナー)

平成十五年度から、生徒の学問への関心を高めるために大学の先生をおよびして、「学問入門講座 一日大学」という生徒の知的好奇心を喚起する授業を行っています。そして、今年これをさらに発展させ、「一流の講師に専門分野を教えたただく」「本物の学問に触れさせる」ことを目的にこの事業を行い、メンタルトレーニングで有名な福島大学の白石豊先生をはじめ各分野の第一線で活躍されている先生方に講師をお願いしました。

しかし、あの頃があったから今の自分があるのだと思います。感謝とお詫び申し上げます。そして、卒業して二十数年たった今でも多くの先生方に声を掛けていただける事は心の支えです。
 同窓生に一言
 東高での生活は出会いのきっかけです。東高生として生活した時間よりも東高OB・OGとして生活する方がはるかに長いので、東高の卒業生との出合いを大切にして下さい。同窓会でみなさんとお会いできることを楽しみにしています。

先生(三期)と東城幸治先生(八期)をお迎えすることができました。現在、菱沼先生は國學院大學、東城先生は信州大学で教鞭をとっておられます。菱沼先生は日本の中世史を専門とし、昨年に角川書店から「源義経の合戦と戦術」を出版され、高い評価を受けています。生物学を専攻されている東城先生はNHK番組の「地球ふしぎ大自然」に出演なさるなど大活躍をなさっています。生徒も普段聞くことのできない専門的な話を聞くことができ、大いに刺激を受けたようです。

さまざまに職業人に聞く

～十四名の同窓生が講師として在校生にメッセージ～

総合的な学習の時間の一つとして行っている「さまざまな職業人に聞く」も今年で三回目を迎えた。平成十六年度には四名、十七年度には十八名の同窓生が講師として職業人として在校生にメッセージを伝えた。

平成十八年度の今年は九月十二日に行われ二十三名の講師のうち十四名の同窓生が、久しぶりの東高で教壇に立ち、自分の高校時代の生活、進路についてどのように考えていたのか、なぜこの職業を選んだのか、この職業に就いて良かったことは何か、逆につらいのはどんな時かなどを後輩たちへ熱く語ってく



後輩達に語りかける大槻勉さん

れました。今年度、講師を務めてくれた同窓生は、斎藤裕樹さん（一期）、尾形幸男さん（二期）、落合範文さん（二期）、高木卓也さん（二期）、堀江孝晴さん（三期）、蒲倉達也さん（三期）、藤原聡さん（六期）、大槻勉さん（七期）、山岸竜太さん（七期）、佐々木寛史さん（十期）、須藤祐樹さん（十一期）、伊東博行さん（十二期）、今野敬樹さん（十三期）、佐藤歩さん（十六期）。

事務局ではこの事業の講師を募集しています。通常の勤務日に実施し、予算措置が無く、ボランティアで講師をお願いするしかないこの事業では、同窓生の皆さんの協力が重要です。講師の自薦他薦の情報を事務局に後連絡下さい。

最後になりましたが、講師を依頼するなどの際に突然ご連絡をすることがあり、さまざまな方にご迷惑をお掛けしたことをお詫びします。

なお、平成十七年度に講師を務めた鈴木勇人さん（九期）、佐藤祐介さん（十九期）の感想を掲載します。

自分の職業を語る？

鈴木 勇人（九期生）

『建築家の仕事とは...』と母校の教壇で後輩たちに熱弁をふるっている自分がそこにいる。

まさか自分の職業を情熱いっぱい語る日がくるとは思ってもいませんでした。部活に明け暮れ進路に悩んでいたあの頃を思い出すと、とても不思議な光景ではありますが、今の自分にとって、これまでの過程の整理と将来のビジョンを考えるうえではとても重要かつ有意義な機会となりました。

これは「さまざまな職業人に聞く」職業人からのメッセージ」と題した総合学習の時間に卒業生として講演をさせていただいたものであり、貴重な経験をさせていただいたものです。

私は、東高校を卒業後、千葉工業大学に進学し、現在は地元福島に戻り、小さな建築設計事務所での代表として必死にもがいています。

昨今、建築界を取り巻く状況は非常に厳しく、耐震偽装問題をはじめとする建築士の倫理に関しては、社会の信頼を失っている職業でもあります。

しかしながら、「未来を担う後輩たちに建築の魅力を少しで

も理解してもらいたい。」「将来福島で建築をやってみたいと一人でも思っていてほしい。」という強い気持ちを持って講義をさせていただきました。聞いてくれた後輩達が少しでも何か希望のようなものを掴んでくれれば幸いです。

このような機会を与えていただいた先生方をはじめ、同窓会の皆様に感謝するとともに、あらためて東高校卒の誇りと責任を持って、今後の設計業務と業界の発展に励みたいと考えております。

でも本当は「厳しい状況でも夢のある仕事だ！」と自分に言い聞かせていただけの講義だったのかもしれない。だとしたらつまらなかつただろうなあ。

(笑)

佐藤 祐介（十九期生）

「さまざまな職業人に聞く」とのこと講師を務めさせていただきました。話す内容をいろいろ考えていたつもりだったのですが実際行ってみるとうまく話すことも出来ず高校生の皆様には期待に添えた講演が出来なかつたかと思えますが、少しでもこれからの進路にお役に立ててもらえればと思います。

私は今、病院の医療相談員を

行っております。特殊な仕事であまり知られていないですが、病気が原因で入院を必要としてしまうと、経済面や、生活面で不自由なことが出てくる場合があります。その際に家族の方や患者様の相談にのり少しでも不安が和らぎスムーズに退院をしていただくように、医師や看護師、リハビリスタッフ、また外部の関係機関との調整を行うことを仕事としています。人と話すことで皆さんの考えに触れることができても充実した毎日を感じています。自分とは異なる考えを持つ人に出会うことが新たに自分を成長できるいい機会なのかもしれません。

高校生の皆様もたくさんの方々とこれからも出会うと思えますが他の人の考えに流されたり、真つ向から否定するのではなく、そいつた考え方もあるのだと新たに自分で考える糧にしてください。人生は一回きりです、これからの人生たくさん楽しんでください。



若い同窓生も在校生をサポート

平成十七年度から一年生に対して、「卒業生の話を聞く」という授業を行っている。平成十七年度は二十三期生から、佐藤未悠さん、大宮友樹さん、岡崎祥子さん、嶋原絵美さん、眞鍋由司さん、遠藤美美子さん、斎藤健一さん、三浦大義さんの八名、そして、平成十八年度は二十四期生から、八代侑輝さん、佐藤健一さん、沼崎唯さん、長澤陽介さんの四名が講師として迎え

られました。勉強と部活動の両方の悩みやそれを克服するため努力をしたこと、高校時代の様々な思い出などをいきいきと語ってくれました。在校生も「勉強時間の確保の方法がわかった」「進路を考える上で参考にになった」という感想を持ったようです。

また、平成十七年度からは二年生に対し、「大学のゼミに参加しよう」という事業を行って

います。これは、福島大学や福島県立医科大学で行われているゼミに生徒を実際に参加させ、大学の雰囲気味わい、レベルの高い内容の講義に直に触れることにより、知的好奇心を喚起し、学習への意欲を高めるために行っています。その際、両大

学に在籍している同窓生が、在校生に大学を案内したり、在校生の様々な質問に答えてくれます。高校時代とは違って成長した若き同窓生の姿に頼もしさを感じるとともに、その同窓生にあこがれの気持ちを抱いた

佐藤 健一

今回事業、二十四期卒業生四人は、文武両立のための工夫についてお話をさせて頂きました。両立の苦労を実感してきた私達は、少しでも後輩への助言になるようにと本気で話し、聞く側も真剣だったので内容はよく伝わったと思います。話の中で誰もが言っていたことは、日々の授業や課題を大切にすることです。そうして部活に取り組んでいくことが文武両立への最良の方法であることは間違いありません。他にもいろいろなお話があったと思いますが、それらのことをきちんと実践していけば、私達も成し得たことなので、必ず後輩達も文武両立を達成できると思います。文武両立が東高の伝統であり誇りであることを胸に刻んで欲しいと思っています。最後に、このような機会を設けて下さり、先生方にはとても感謝しています。そして、後輩達が東高をさらに飛躍させていくことを願っています。

編集後記

発行が予定よりも二ヶ月以上も遅れたこと、寄せられた原稿で紙面の都合上掲載できなかったものがあること、申し訳ありません。(今野充宏)

福島東高：私とは切っても切り離せない大切な場所です。言うまでもなく、この場所が誕生した時から様々な人が様々な形で東高に関わっています。私もその中の一人です。東高を卒業したのは八年前、そしてその後教育実習生として二週間お世話になり、約二年前からまたこの場所にいます。私は十六期生です(東高生ならこれで十分年齢がわかってしまいますよね。)

ざつと計算しても、私は自分の人生の約五年間を東高で過ごしていることになりました。もう何年も東高校でご指導なされている先生方もいらっしゃるが、私の年代でこれほどいるいるな形で東高に所属している人間はいないと思います。東高で育てていただき、東高で教育の基本を学び、東高でまだまだ未熟ながらそれを実践しているのです。そのことを考えると私は本当に幸せ者です。時代が変わり、人が変わり、環境が変わっても東高のコアは変わらない、だから東高は私の帰る場所なのでしょう。そんな東高が大好きです。

(渡辺久美子)

お詫び

福島県立福島東高等学校
校長 深澤 陽 一

10月下旬より、一連の報道がなされました必履修教科・科目の「未履修問題」につきまして、同窓生の皆様にはご心配とご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。

現在の3年生には、地歴科、情報科、理科の3教科で未履修がありました。そのため、10月31日から補充授業を行ない、先日完了したところです。2年生につきましても、2学期期末考査終了後、未履修科目の補充を開始したところです。

なお、未履修教科・科目がある卒業生については、次のように取り扱われることになりました。

- 必履修科目を未履修で既に高等学校を卒業した者について、卒業認定を取り消すことはありません。
- 当該者の大学及び専修学校専門課程の入学資格について、影響を生じません。
- 調査書の備考欄には、「未履修が、生徒の責に帰すべき事由によるものではない」ことが明記されます。

生徒、保護者および同窓生には多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたこと、重ねてお詫び申し上げます。